

平成 29 年度「創成プロジェクト・総合工学演習」実施報告書

平成 29 年度も多くの学外テーマ提供者・サポート教員および学生の協力を得て、「創成プロジェクト」と「総合工学演習」を合同開催し、多くの成果を挙げる事ができた。

表 1 に平成 29 年度の創成プロジェクト・総合工学演習に関するスケジュールを示す。

表 1 平成 29 年度「創成プロジェクト・総合工学演習」実施スケジュール

実施日	内容
4月10日(月)	「創成プロジェクト説明会」2番講義室(6校時)
4月17日(月)	「知的財産・発想法」についての講義 矢澤教授 2番講義室(6校時)
4月18日(火)	「テーマ希望調査会」1番講義室(6校時)
4月24日(月)	創成プロジェクトサポート教員ミーティング
4月25日(火)	工学教育支援センター平成29年度第1回運営会議
5月1日(月)	3者面談期間(～5月19日まで)
6月21日(水)	アイデア発表会 2番講義室(6校時)
10月4日(水)	中間発表会 2番講義室(6校時)
11月11日(土)	最終成果発表会 総合教育研究棟・多目的ホール(午後)
12月1日(金)	3大学工学部教育連携会議(長崎大学)
12月2日(土)	学生ものづくりアイデア展 in 長崎

4月10日の説明会で12種類のテーマの概要を紹介した後学生を募集し、最終的には表2に示す10チームに分かれて活動することになった。今年度は昨年度と同様、中間発表会を10月初旬に、最終発表会を11月中旬に設定し、12月初旬の学生ものづくりアイデア展に臨んだ。最終成果発表会では学外からの参加者も含めてものづくりの成果に対する説明やプレゼンテーションを行い、学生を含めた全員の投票で、第1位～第3位を以下のように選出した。

第1位:「LINE ドアホンの開発」チーム

第2位:「ポータブル型 Moving Cloud server 開発プロジェクト」チーム

第3位:「2次離島向け小型電動モビリティの開発B」チーム

12月2日の「学生ものづくりアイデア展」には、長崎大学開催であることからほぼ全チームである9チームが参加し、新潟大学からの2チームおよび富山大学からの4チームと成果を競い合った。その結果、長崎大学から出展された「ポータブル型 Moving Cloud server 開発プロジェクト」チームが最優秀賞を、「LINE ドアホンの開発」チームが優秀賞を受賞し、長崎大学学生が制作した作品の質の高さと着想の豊かさが評価された。

表2 平成29年度の創成プロジェクトテーマ概要

テーマ名	担当者	サポート教員
小学1年生～6年生の理科・さんすう教育のための新しいサイエンスマジックの開発	有田 直矢 (化学・4年) 田畑 優利奈 (化学・1年) 林 陽佳 (化学・1年)	矢澤 孝哲
医療機器に触れて 3D プリンターを使って未来の医療機器を開発してみよう	KIM DUHYUN (機械・1年) 徳久 泰河 (電気・1年) 溝口 晃太 (情報・1年)	菌田 光太郎
超小型 電動モビリティの開発 A	中村 琢夢 (機械・3年) 古村 友秀 (機械・3年) 横尾 賢 (機械・3年) 古川 涼一 (機械・2年) 田崎 太一 (機械・1年)	坂口 大作
2次離島向け 小型電動モビリティの開発 B	嶋崎 康介 (機械・修士1年) 宮地 聖人 (情報・3年) 原 洋平 (機械・1年) 平田 幸宏 (機械・1年) 八塚 晃介 (情報・1年)	坂口 大作
災害教訓に関する調査と情報発信 (LINE で伝える、諫早大水害)	杉本 大志 (機械・修士1年) 中山 拓也 (機械・1年)	高橋 和雄
正浸透技術を用いた発電の研究	山寄 啓司 (化物・4年) 服部 幸佑 (化物・2年) 山田 優樹 (情報・1年)	藤岡 貴浩
超強力シュレッダー「バリバリ君」2号の 設計・制作	鈴木 瑛心 (機械・修士1年) 徳重 与夢 (機械・修士1年) 岡本 将弥 (機械・2年)	才本 明秀
LINE ドアホンの開発	内田 凜介 (情報・修士1年) 中島 良太 (情報・修士1年) 松田 健志郎 (機械・1年) 清本 優希 (情報・1年) 山下 翔 (情報・1年)	小林 透
ポータブル型 Moving Cloud Server 開発プロジェクト	鮫島 直洋 (情報・修士1年) 竹内 賀徳 (化物・2年) 大段 慶之介 (情報・1年) 丸橋 大輝 (情報・1年)	小林 透
コスパ最強！ポータブル人数カウンター	賀来 隆大 (機械・修士1年) 福田 友樹 (情報・4年) 馬場 博己 (化物・2年) 渡辺 隼 (化物・2年)	扇谷 保彦